

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272100377		
法人名	有限会社 エーティ		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	静岡県富士宮市大中里1164-1		
自己評価作成日	令和2年1月20日	評価結果市町村受理日	令和2年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;jigyosyoCd=2272100377-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;jigyosyoCd=2272100377-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まず第一に利用者様の笑顔を中心にしています。日常はもちろん、季節の行事や外出など、楽しんでいただけることを計画し、利用者様と職員と一緒に楽しみ、お互いが笑顔で笑いあえるよう日々過ごしています。また、地域との関りも大切にしています。その一つとして寄り合い処への参加は、利用者様と職員の毎月の楽しみとなっています。富士宮の秋祭りの際には、施設駐車場に山車が来てくれるので、利用者様、職員、そして、近隣の皆さんとで勇壮なお囃子を目の当たりにしながら、外で軽食をとるのが毎年の恒例となっています。また、地域との協働という面では、お茶を飲む場所が欲しいという近隣の方の声と、地域の力になりたいという事業所の願いのより、毎月お茶会を開催し交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ひまわりのような笑顔～」との理念通り、玄関を入ると愛らしいチワワ犬「銀ちゃん」と、朗らかな職員の声の出迎えがある事業所です。昨年一部職員の入れ替わりがありました。小規模多機能事業所が併設されていることからスケールメリットを享受できて職員体制も間もなく整い、現在では同級生トリオを中心に女性ばかりの柔和な雰囲気を出し出す場所としてリスタートしています。手作りのさくら餅や草団子で利用者をもてなす管理者のもと、非番の日でも「楽しいから」と外出支援に加わる職員が、アセスメントや夜間のラウンドで寄り添う等介護の基本を背景に、「第二の我が家」「第二の家族」を利用者に日々提供しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちはひまわりのような笑顔で自由な明るい生活ができるよう支援します」という理念のもと、管理者・職員一同笑顔を大切に、日々取り組んでいる。	「ひまわりのような笑顔で～」の理念は玄関に掲示され、またフロアの様子からも利用者の笑顔に結ばれていることは一目瞭然ですが、管理者としては年間での振り返りをおこない、確認の機会をつくっています。	理念が実践できていることは訪問者にも入分伝わるものですが、職員の意識継続のためにも朝礼での唱和で1日の始まりから息を合わせると、なお良いと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の方には開設時より、理念や取り組みについてご理解をいただいている。また散歩や掃除の際には、声をかけて頂いたり、畑のご指導をいただいている。イベント時には参加をお願いすることもある。	「地域とは協働を意識したつきあいを～」との管理者の想いは民生委員と和合し、『ほっとするお茶会』に実っています。手作りのお茶菓子でもてなし、「喫茶店がないんだよね」という地域の不満も解消しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には、区長様をはじめ多くの民生委員の方に参加していただいております。認知症の方の支援や対応について、事例を報告することでお伝えしている。またお茶会を開催し地域の方の相談窓口になれるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や利用者様の様子、ヒヤリハット等の報告を行い、困っていることがあるときは行政に相談させていただいている。地域の方からは、協働という面での提案や、防災についての助言をいただくことがある。	大中里地区にある地域密着型は此処だけということもあり、区長をはじめとする地域の皆さんには大変親身になってもらえ、熱いエールは民生委員が7名も集まる運営推進会議の開催に至っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所や利用者様等のことで困りごとがあった時には、真っ先に市へ相談をするようにし、事実の把握や解決策のご提案をいただくようにしている。運営推進会議にも参加いただいているので、その機会も大切にしていく。	市高齢介護支援課、地域包括支援センターには運営推進会議に足を運んでもらえ、判らないことがあれば電話で問い合わせもでき、常日頃から助けられています。また緊急なお知らせはメール配信でも届いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束07宣言をしており、原則行っていない。3ヶ月に1回は身体拘束委員会を開き、現状の確認や身体拘束をしないケアについて話し合っている。ご家族様にも入居時に説明をし、ご理解をいただいている。外部研修があるときには、積極的に参加をしている。	一昨年度の身体拘束廃止未実施減算については作成した指針に基づき、身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1度実施しています。議事録にはチェック項目を設け、話し合いは事例検討された具体的な内容となっていることを確認しました。	書面制作についてはさらに整備し、また「職員周知」も抜かりなく供覧印をとることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に振り返りを行い、気になったことについては、お互いに声をかけあったり、管理者に報告し、未然に防ぐよう職員一同努めている。外部研修があるときには積極的に参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員によって理解の程度が違うのが現状である。ミーティング時に勉強できる機会を設けたり、実際利用に向き合った方がいた時に理解を深められるよう努めている。現在利用している方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様の不安や疑問に思うこととお伺いし、十分な説明と話し合いを行い、ご納得いただいたうえでご契約させていただいている。契約後も疑問や不安に思うことはないかお聞きするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日々の会話の中から聞き取るようにしている。ご家族様からの要望等は、面会時にお伺いするようにしている。聞き得たご意見や要望には出来る限り添える様、努めている。	外部評価のアンケートでは家族が事業所を信頼していることが見え、サービス担当者会議も面会の機会を利用して家族を交えておこなえています。書面で利用者の様子を届けていますが、間隔が少し空くのが課題です。	面会も少ないことから、「利用者の様子」は1ヶ月に1度は発信できるように望みます。また、遠方の家族もいますので、「何枚必要ですか」との提案もあると良いと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に、職員からの意見を吸い上げるようにしている。また日々の中でも、新人職員であっても意見や提案ができる様、心掛けている。上がった意見等で反映したいことは代表に話をもっていき、実現に結び付くようにしている。	主婦層の集団で、中には同級生トリオもいて、仲睦まじい間柄であることが理念の実践に生きていると感じられ、実に働きやすそうです。非番の日でもミーティングや外出支援に加わることから気持ちも伝わります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の性格や適性を把握したうえで、個々に仕事にやりが持てる様、ねぎらいや励ましの言葉をかけている。また悩みごとについても、職員本人や管理者からの話に耳を傾け、早期解決できるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に合った研修への参加を促している。また、外部で行われた研修については、ミーティング時に内部研修を行うことにより、職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の小規模ホーム部会では、合同で行う運動会や新年会、研修など様々な交流の場があり、代表をはじめ職員が積極的に参加をしている為、顔見知りになり、情報交換をしたり、互いの施設訪問をすることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を抱えている利用者様が多いので、思いをしっかりと聞き取れるよう、初期の会話や関りについては、特に大事にしている。聞き取りが難しい方についてはご家族様に聞いたり、日々の関りからサインを見逃さない様心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談の際に、ご家族様の意向や困っていること、またサービス利用についての心配事を、じっくり聞くようにしている。意向にはできるだけそ添えるよう心掛け、不安に思っていることを取りのぞいて、安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様からお話を聞いたうえで、他のサービス利用が望ましい時には、そちらの提案も行うようにしている。また、サービス利用中に、状態や必要としている支援が変わった時にも、それを見極め、最も合ったサービスにつなげるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるので、生活を共にしている中では、職員の相談に乗ってくださったり、ねぎらいの言葉をかけていただくことも多い。共に生活をしている中で、互いに寄りかけられる関係が自然とできている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	回診に来た際には、ご家族様の意見や意向を伺い支援につなげたり、逆にご本人様からの訴えをご家族様に伝えることで支援の方向性を考えたりと、ご家族様と共に情報を共有、交換しながら支えあう関係系作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問があり楽しく談笑されたり、ご家族様の許可のもと、その方とお買い物やお墓参りに行かれたりと、入所後も以前と変わらない関係を続けている方もいる。	リビングのカーテンタッセルが綻んでいることから、編み物が得意な人が補修を引き受けてくださったり、「一諸の隣保班だったんだよ」と親しい隣人が訪ねてくる人もいて、その時々に応じて継続支援をおこなっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人も孤立しない様、嫌な思いをしない様に気をつけている。工作や家事を行うときには、席の配置に気を配るとともに、職員が入り込むことで、みんなで一つの話題に花を咲かせている。また互いに気にかけてあう姿も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は入院や転院、お亡くなりになるケースが多い。入院、転院の際には様子を伺いに行くこともある。その際にはご家族様からの相談に乗ることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から聞き取れるよう努めている。聞き取りが困難な方は、生活歴やご家族様から知りえたご本人様の性格などから考慮したり、ご本人様の様子を観察をしつかり行き、小さなサインを見逃さない様にしているが難しい方もいる。	尿漏れしてしまう自分を受け入れることができない人や、入浴で職員の見守りを嫌がる人もおり、自己決定できる(介護度1~2)利用者に寄り添うことに此処1年試行錯誤していますが、徐々に好転の兆しがあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしつかり行き、わからないことについては、ご家族様に伺ったり、以前のケアマネジャーの方に情報提供をお願いすることもある。ご本人様のこれまでを知ること、より良いサービス提供につなげられるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態は常に観察し、気付いたことは職員間で情報を共有し、全職員で把握できるようにしている。有する力についても、個々に違い、また日々変わっていくので、状態の変化や、その時その方に合った支援の仕方を随時共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関りで知りえたその方のニーズや、ご家族様の意向は、随時報告し話し合い、介護計画に反映できるよう心掛けている。期間に関係なく見直しが必要な時には随時行うようにしている。	介護支援専門員の資格をもつ計画作成担当者が現場に入り、的確な把握があることから、職員からの聴取が簡易となるのはプラス面とマイナス面が混在していますが、2表のサービス内容は安心が伝わるものです。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきは介護記録に記入し、重要事項については、申し送りノートにも記入し、さらに職員同士が口頭でも報告するなどし、情報の共有を図っている。支援の工夫も有効的なものは皆で実践できるよう情報の伝達を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様に変化があった時は、迅速にご家族様とお話し合いを行い、その時その方に合った介護計画を作成するよう努めている。その際には、ご本人様やご家族様の意向をできるだけ反映できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長様をはじめ民生委員の方や近隣の方に地域住民として受け入れていただいております。寄り合い処では、事業所では企画できないイベントに参加させていただいたり、利用者様たちの楽しみとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の意向で主治医を決めていただいている。なじみの病院にかかる方や、希望により協力医療機関の定期的な往診を受けている方もいる。事業所と医療機関との連携も取れていると思う。	キーパーソンが看護師で主治医を必要としないという人が1名、昔馴染みの医師にお願いすることで家族が関わる時間ともしたい人が1名、他7名は24時間オンコールの協力医の訪問診療を月2回受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員の配置はないが、代表が看護師のため、何かの時にはすぐに駆け付けてくれている。介護職員も気づいたことは互いに報告しあい、必要に応じて受診ができるようにしたり、主治医への報告を行うようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に伺い、担当看護師と話をするようにしている。情報提供には迅速に対応し、退院後のケアについてもしっかり指示をいただくようにしている。必要に応じて、ご家族様とともに会議に参加することもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご意向を伺っているが、その段階では決まっていない家族も多いので、時期をみながら再度お話をし、ご意向確認を行っている。看取りを希望された際には、その方のケアに沿った記録用紙を別に用意し、全職員が様子を把握できるよう取り組んでいる。	契約の段階で、『終末期における看取り介護について』などの書面に基づき、「看取りをおこなう事業所である」ことを家族に説明していますが、9名中7名は「そのときにならないとわからない」として、心身状態に変化があったときに改めて話し合うこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、職員は把握している。また定期的にミーティングを利用し、再度確認できるようにしている。応急処置は消防署の方に来ていただき年に1回行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害マニュアルを作成している。また利用者様と避難訓練を行っている。職員だけでは人員確保が難しいと思われるため、地域の方にご協力いただける様、お願いしている。また、災害時には、避難場所として地域住民の受け入れを行うことも周知している。	年2回の法定訓練の内1回は消防署の立ち合いを長年求め、心臓マッサージなども習得していましたが、本年度は単独実施でした。搬出用のマットをつかった訓練等は職員が利用者役となり、試用を繰り返しています。	「地域住民の避難場所として在りたい」としていますので、備蓄の整備が進むことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の生活歴や性格を把握し、一人一人にできるだけ合わせた対応をするよう心掛けている。常に人生の先輩であることを忘れず、積み重ねてきたものを、共に大切にできるよう努力している。	利用者と職員の関係性が近いことが見え、管理者に質問したところ「家族の立場になって関わってほしい」「そこだけ切り取ったらどんな風に見えるか俯瞰してみしてほしい」と常から話しているとの安心な回答を得ました。	個人情報に関しては家族と書面を交わしていますが、「肖像権」「救急搬送の際の延命措置」などについても整備していくことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定する場面をできるだけ多く設けるようにしている。自己決定の難しい方には「どちらがいいですか?」、希望を言える方には「何がいいですか?」など、聞き方も工夫しその方の持っている力を引き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りその方の意向や希望に添えるようにしているが、共同生活のため添えないこともある。また、ご本人様とご家族様の意向が合わないときには、ご本人様の納得をいただくために、ご家族様に協力していただくこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の洋服の選択やお化粧もそうですが、月に1回、「きれいになる日」を設けており、ボランティアの美容師さんにヘアカットやネイルを施術していただいている。その際にはご自身で髪形やお色を選ばれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には調理の下準備を行っていただく、台所に一緒に立ちお手伝いいただくことがある。また、季節を楽しめるよう、畑になっているものを一緒に収穫し調理することもある。	「冷蔵庫を開けて献立を決める」家庭の台所を実践していますが、ひな祭りやクリスマス等の行事食は予め企画しています。「平成さいご御膳」「令和はじめて御膳」等、ウイットとアイデアに富んだメニューの日もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量はチェック表にて把握し、水分も十分に確保できる様、こまめに水分補給する時間を設けている。食事、水分ともに一人一人の状態に応じて形状を変え摂取しやすくしている。またその方にあわせ、摂取時間を柔軟に変更することも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の力量に応じた口腔ケアを行っている。夜間は、義歯の付けお気を行い、清潔を保つよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握することで、定時、随時の声掛けにより、できるだけトイレでの排泄ができるよう努めている。トイレのサインも見逃さない様、気づきはすぐに職員間で情報を共有するようにしている。	パットとリハパンの人が、入居後飲酒習慣が取り除かれ、生活リズムが整うなどのエビデンスを以てパットが外れた例があります。車いす利用の2名は立位がとれるため、未だ職員1名での介助としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記入することで、個々の状態を全職員が把握している。便秘にならない様、食物繊維や乳製品をとったり、できる方には適度に歩いたり体操を行っていただき、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自己決定のできる方には、ご本人様の希望に添えるようにしているが、職員の配置やイベント等によりかなわないときもある。日々の入浴を楽しめるよう、足浴、入浴剤やゆず湯などを用意している。	お風呂は週2、3回を清潔の目安として準備をおこなっていますが、「かったるい」「明日じゃダメ～」と軽い拒否があり、介護度1が4名・2が1名の難儀さが入浴介助にも如実に現れ、職員の腕の見せどころです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起きていることだけを良いことと捉えず、適度な休息をとっていただくようにしている。ご自身でお部屋に行き休まれる方や、奥のソファーを利用し皆さんの声の中で安心して休息をとる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の状態に合わせた服薬支援を行っている。薬の変更があった時には、迅速に職員への情報伝達を行い、把握できるようにしている。頓服薬については、飲んだ時間を記録し明確にわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力量ややる気で、できることをやっていただき、生きがいになると感じたことは続けるようにしている。また、おやつを楽しみにしている方が多いので、喜んでいただけるものを作ったり、散歩やイベントにて気分転換をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠くへの外出支援はまだないが、利用者様の希望での日々の散歩、いちご狩りやお花見、花鳥園、外食などに出かけている。また散歩時には近隣の方との関りもあり、時にはお野菜や水分補給の飲み物などをいただくこともある。	晴れたら散歩、デッキでの外気浴、月に1度『寄り合い処』へ出かけての地域交流を日々積み上げています。恒例となった外出行事は、いちご狩り、国際花鳥園、バラ見学、お花見等があり、オリンピックの聖火ランナーを見るのが目下の楽しみとなっています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談のもと、こちらでお預かりし管理しています。ご自身で選び、支払うことを大切にしたいと、移動販売車をお願いし、個々にお金を持ち買い物をしていました。またほしいものを職員に伝え、購入することもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご友人から、電話がかかってきたり、年賀状やお手紙が届く方もいる。電話の際には、今後もお気軽にお電話いただける様お伝えしている。携帯電話に直接かかってくる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔にし、特にトイレは汚物からにおいが出ない様、新聞紙で包み蓋つきのごみ箱に捨てている。また、リビングの壁には季節を感じられる制作物などを飾ったり、皆さんの思い出の写真を貼っている。	空気清浄機がくりぬいた壁の中に納まり、また戸棚があっても手摺り(取り外し可能)が設置され、また「横臥したいが人恋しい」人のための簡易ベッドなど、動線や自立への配慮が満ちた共用空間です。揺れる桜のモビールもエアコンの風具合を見える化させています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファースペースもあり、そこで休まれる方や、互いに声をかけあって、好きなところに座る方など、様々に過ごしている。誰もが孤独になることのないように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が使っていた馴染みのあるものを持ち込んでいただくようお願いしている。しかし、事情により持ち込めない方もいる。その際にはこちらにあるもので対応することもあるので、その場合は徐々に自分に合った部屋にできるよう協力している。	遺影を持ち込んでいる人は、伴侶に毎日水を手向け、手を合わせ、水菓子などが手にはいると「食べるよね」と話しかけつつ、一緒に味わっています。また、面会者が持参して、少しずつ物が増えている居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、エレベーターや手すりを設置することで、自立の範囲を少しでも増やせるようにしている。また、日々の中で職員から出た要望により、手すりや安全バーの増設をすることもある。		